

《ミニブレイク168》

# フェデラーの必殺サーブ

監修/辻野隆三(MIRAI TENNIS ACADEMY) 作画/石川正順



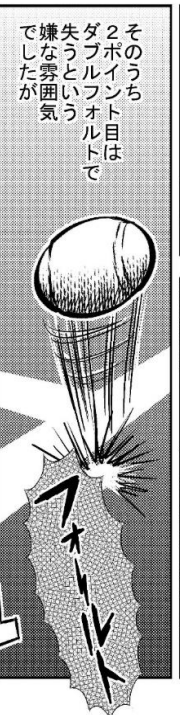
ノバク・ジョコビッチ

1987年5月22日生まれ 28歳  
身長188cm/体重78kg  
セルビア・ベオグラード出身  
対戦時のランキングは1位

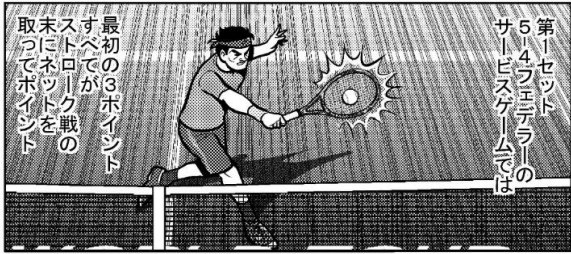
VS.

ロジャー・フェデラー

1981年8月8日生まれ 34歳  
身長185cm/体重85kg  
スイス・バーゼル出身  
対戦時のランキングは2位



果敢なネットプレー

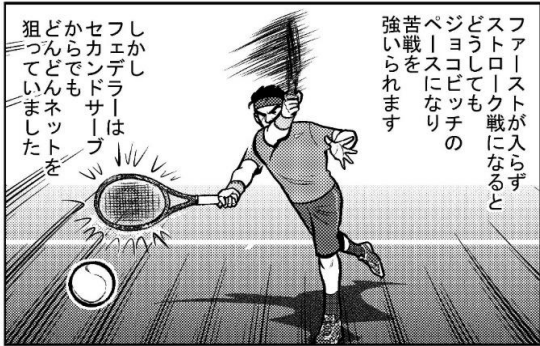


最初の3ポイント  
すべてが  
ストローク戦の  
末にネットを  
取ってポイント

第1セット  
5-4フェデラーの  
サービスゲームでは



フェデラーが  
得意とする  
ネットプレー  
ですがこの  
試合は早く  
出ました

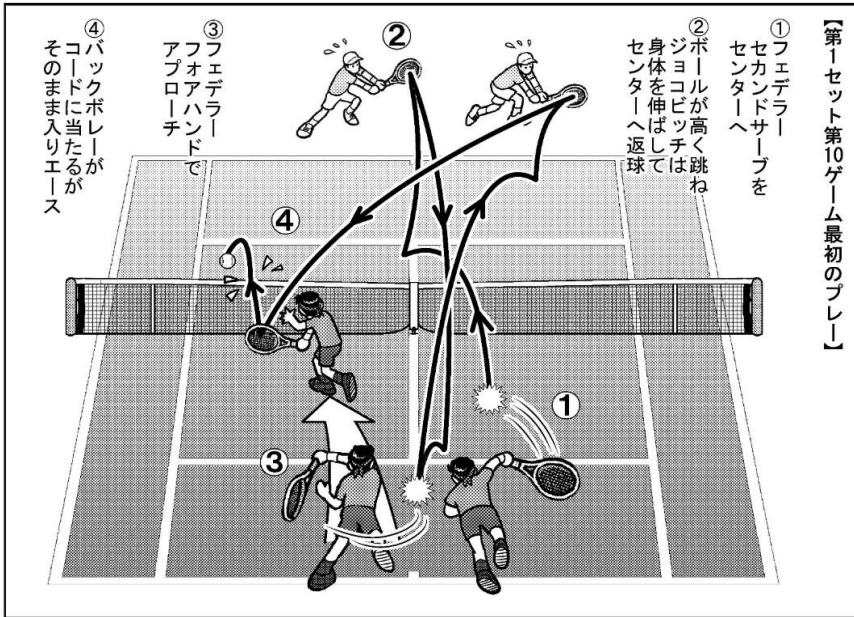


しかし  
フェデラーは  
からでも  
どんどん  
狙っていました

ファーストが入らず  
ストローク戦になると  
どうしても  
ジョコビッチの  
ペースになり  
苦戦を  
強いられます

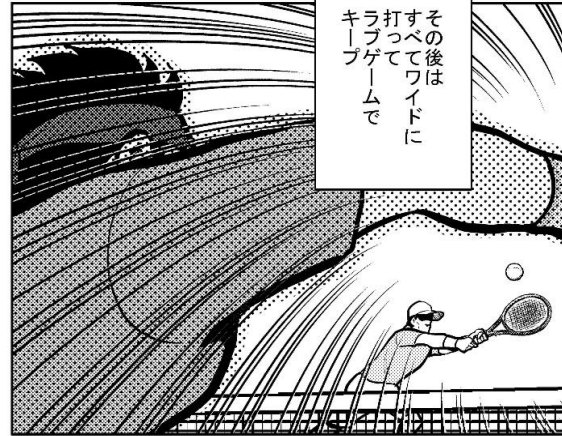


ここで注目  
すべきは  
ポイントも  
フェデラーも  
セカンド  
サーブ  
だったと  
いうこと



【第1セット第10ゲーム最初のプレー】  
①フェデラー  
セカンドサーブを  
センターへ  
②ボールが高く跳ね  
ジョコビッチは  
身体を伸ばして  
センターへ返球

③フェデラー  
アプローチ  
で  
④バックホレーが  
コードに当たるが  
そのまま入りエース



その後は  
すべてワイドに  
打って  
クラブゲームで

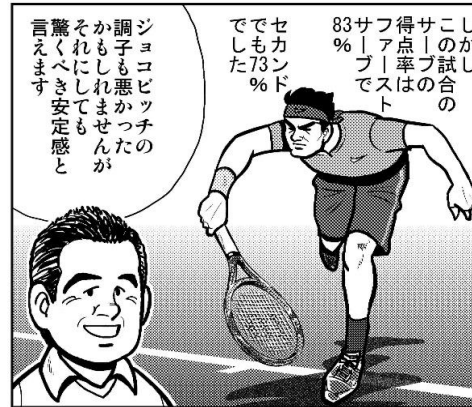


第2セット  
ジョコビッチの  
サーブを破った  
直後の  
第3ゲームも  
今度はいきなり  
センターへ  
サービスエース



ワイドを  
意識させて  
ここで  
センターを  
狙うという  
替えていきます

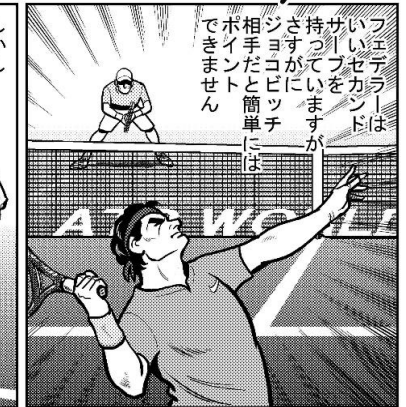
この試合の  
サービスは  
フェデラーも  
打ち込んで  
打ち込んで



ジョコビッチの  
調子も悪かった  
かもしれないが  
それにしても  
驚くべき安定感と  
言えます



しかしこの  
試合の  
サーブの  
得点率は  
83%  
サーブで  
でも73%  
でした



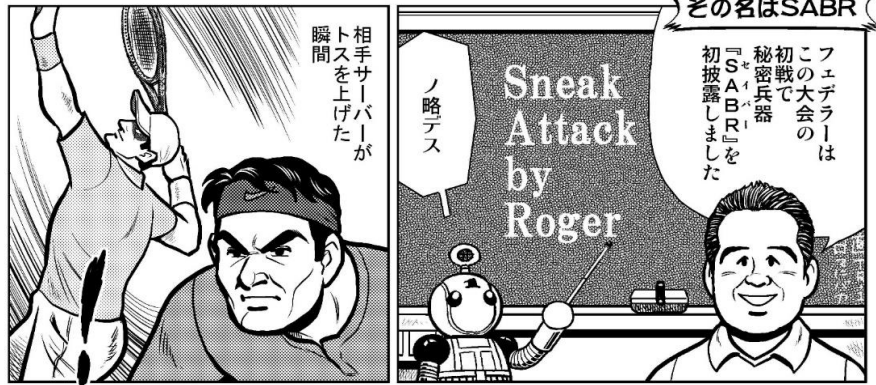
フェデラーは  
サーブの  
持ちが  
さすがに  
さすがに  
さすがに  
さすがに  
さすがに



数字は正直に  
語るのですね

80%の  
サーブに  
落ち込んで  
います

ドバイ大会では  
フェデラーが  
80%の得点率  
でサーブに  
落ち込んで  
います



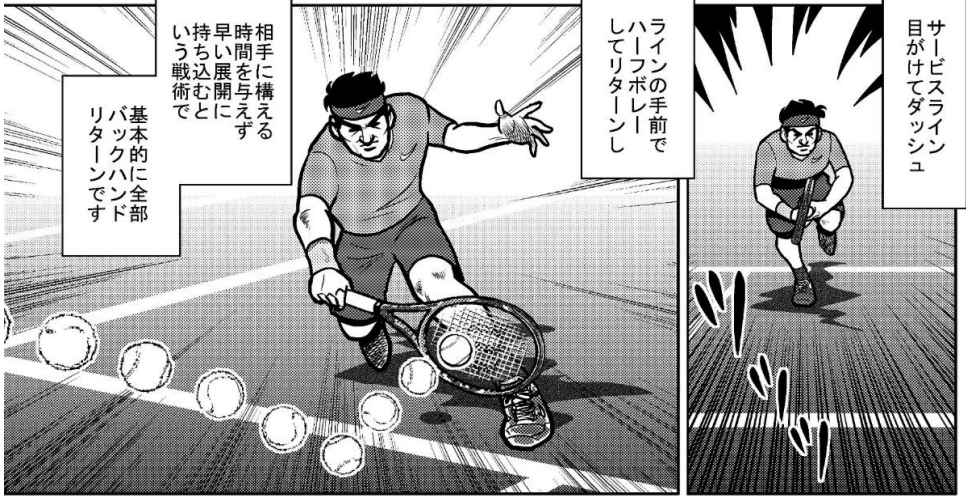
その名はSABR

フェデラーはこの大会の初戦で秘密兵器「SABR」を初披露しました

Sneak Attack by Roger

ノ略テス

相手サーバーがトスを上げた瞬間

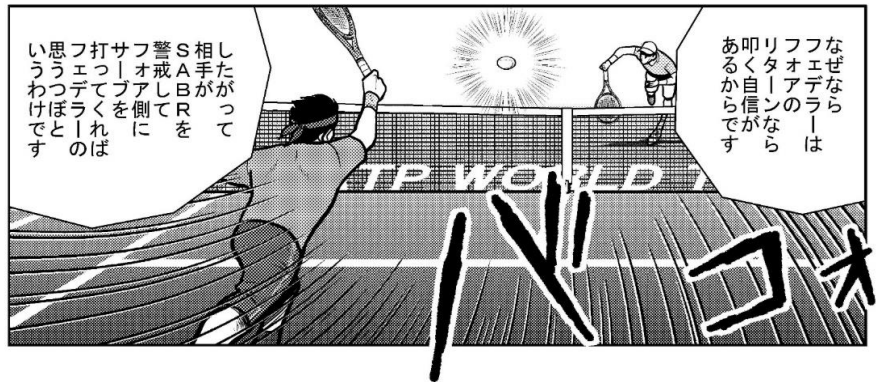


サーブスライシユ目がけてダッシュ

ラインの手前でしてリターンし

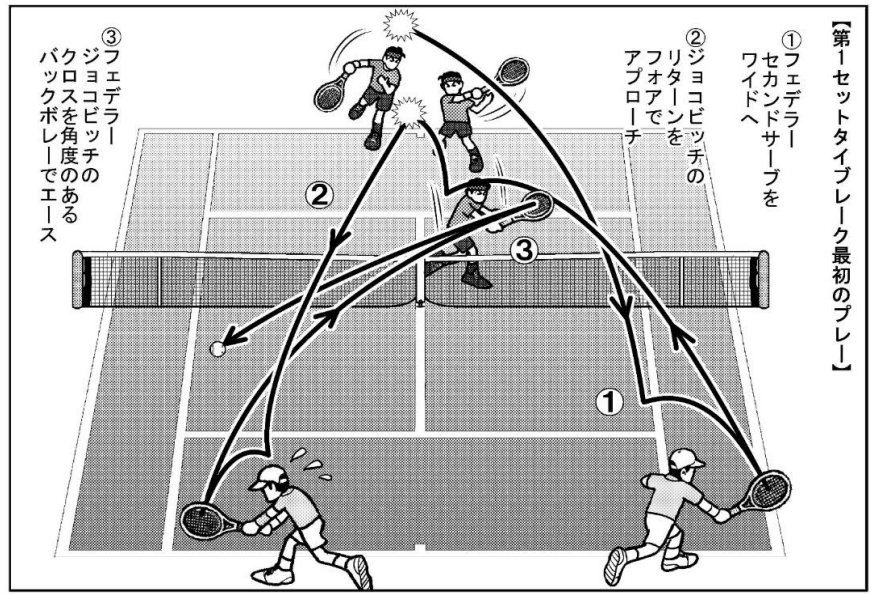
相手に構える早時間を与えず  
持ち込むという戦術で

基本的に全部バックハンドリターンです



なぜならフェデラーはリアンの自信が叩くからです

相手が警戒してSABRをフット側で打つてくればフェデラーの思わぬ

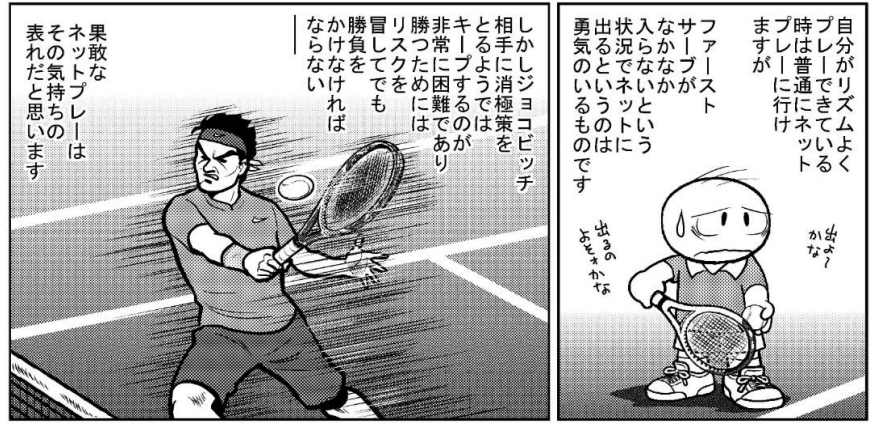


【第1セットタイブレーク最初のプレー】

①フェデラーセカンドサーブをワイドへ

②ジョコビッチのリターンをフォアでアブローチ

③フェデラージョコビッチのバックスを角度のある



自分がリズムよくプレーできていない時は普通にネットプレーに行け  
フアーストサーブが入らないという状況でネットに勇気というものは

しかしジョコビッチ相手に消極策をとるようではキープするのが非常に困難であり勝つためにはリスクを冒してでも勝負をしなければならない

果敢なネットプレーはそれだと思えます



逆に言うとネットが取れない状況では明らかにジョコビッチに主導権があり

もしセットマツチたら体力に勝るジョコビッチで押し始めてしまった展開にありませぬ

このSABRはフェデラーのリアーディングゲームにおける攻撃のバリエーションを大幅に増やしたと言えるでしょう

その直後  
フオアで  
カウンター気味に  
リターンエースへ

そして  
4ポイント目は  
フオアのSABRで  
ジョコビッチの  
ミス誘うなど  
バックのSABRを  
警戒した  
ジョコビッチの  
裏をかいた  
プレーをしています

特に第1セットの  
第3ゲームは  
15-0から  
フオアの深い  
リターンで  
追い詰めポイント

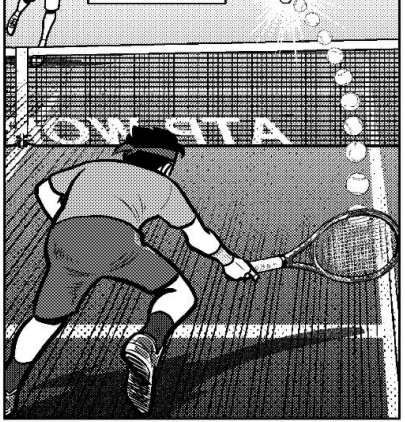
また第1セットの  
タイプブレイクでも

フェデラーが  
3-1とリード  
した場面に  
ジョコビッチの  
セカンドサーブを  
フオアのSABR  
を使って  
ミニブレイク

そのまま  
連続で  
ポイント奪い  
フリーで  
タイプブレイクを  
制しました

ガニヤ

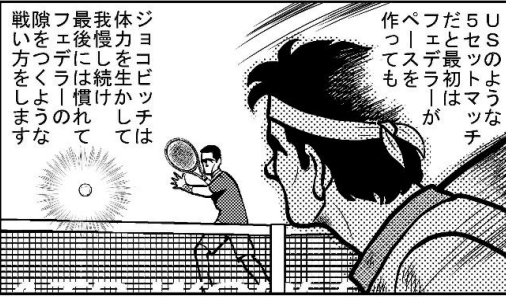
7-6(1)  
6-3  
フェデラー  
ストレート  
勝利



この大会のあとの  
USオープンでは  
ジョコビッチが  
勝利して  
います

その勝敗を  
分けたのは  
セット数  
だと思います

USのような  
5セットマッチ  
だと最初は  
フェデラーが  
ペースを  
作っても



ですから  
ジョコビッチは  
相手にする時  
は  
ファースト  
タッチに  
気を配り  
その一打で  
支配できる  
ように  
プレーして  
います

なめるホド  
つまり...

これは  
この決勝戦の  
フェデラーが  
ポイント数が  
ラリーが5本  
以下では85  
本以上はまだ  
落ちてしまっ  
たから分るの  
です

【今日のポイント】

フェデラーが  
主導権を与えない  
ために用いた  
戦法です

①サーブはワイドを効果  
的に使ひセンターへ  
エース狙い  
②サーブでは  
リスクを言ひても  
ネットを取る  
③バックハンドの  
SABRを意識させ  
フオア側へのサーブ  
を誘う

「ごらんと  
最初に  
戦った  
戦術機？」

SALBRE  
ソレハ